

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成26年 8月14日 更新

事務事業名		消防施設維持管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	総務部	課長名	中村誓丞
	施策	1	危機管理・防災対策の推進			所属課	総務課	担当者名	山隈和徳
	基本事業	1	災害の未然防止対策			所属班	交通防災班	(内線)	1213
予算科目		会計一般	款9	項1	目3	事業連番10009	法令根拠消防法	成果優先度評価結果	⑥
								コスト削減優先度評価結果	⑨
終了、開始年度		☐ 25年度で終了 ☐ 25年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・設置している消火栓、防火水槽、ホース格納庫、標識等の修繕、取替えを行う。 ・消防水利の設置及び区が設置した消防水利が市に移管されてからの管理。
【業務の流れ】	・消防団、消防署及び区等からの連絡において現地確認を行う。業者への発注、検査、支払い。
【主な予算費目】	・需用費
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・土地所有者から、個人の宅地に設置している消防水利を撤去して欲しいとの要望が増えつつある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)	26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
・老朽化している防火水槽の修繕(3箇所) ・防火水槽撤去工事(3箇所)	・老朽化している防火水槽の修繕及び撤去工事を行ない、施設の維持管理に努め有事に備えることが出来た。(横町地区、御代志地区、黒石地区の防火水槽の撤去を行った。)	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 修繕を行った消防施設の箇所数	箇所	・消防水利台帳データ化業務の増、 ・政策判断が必要な工事請負費の減
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
・消防水利		→ ア: 市内の消防水利数
		→ イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
・災害時に使用ができるよう、適正な状態を保つ。		→ ア: 修繕が必要となった消防施設の箇所数
		→ イ:
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
・災害時に適切な状態を保つ為、防火水槽及び補水管・消火栓の修繕を行う。		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	23年度 実績(決算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	27年度 予定	28年度 見込	29年度 見込
①活動指標	ア	箇所	4	3	5	5	5	5	5	5
	イ									
②対象指標	ア	箇所	809	814	816	824	825	826	827	828
	イ									
③成果指標	ア	箇所	4	3	5	5	5	5	5	5
	イ									
投 入 費 量	事業 費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	2,848	3,572	2,700	2,156	4,804	4,000	4,000
	人 件 費	(A)事業費計	千円	2,848	3,572	2,700	2,156	4,804	4,000	4,000
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	4	3	4	5	4	4	4
投 入 費 量	人 件 費	延べ業務時間	時間	190	300	190	220	190	190	190
		(B)人件費計	千円	767	1,221	773	876	773	773	773
	トータルコスト(A)+(B)		千円	3,615	4,793	3,473	3,032	5,577	4,773	4,773

事務事業名	消防施設維持管理事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度的事後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 ・消防団、消防署等と連携を密にし迅速に対応する。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・消防団、地域での維持管理を適切に行うことで、修繕の件数が減り、向上の余地がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ・他に類似事業がない
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・修繕のみについての経費であり、削減の余地はない
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・修繕に対応するための事務であり、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・市内全域にわたる消防水利の修繕に要する経費であり、公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 消防水利の維持管理は、法に基づく市の役割であり適正である。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

・消防団、消防署等が行った水利の修繕箇所を適正に修理できた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 今後も消防団、消防署等と連携し、水利の確認が必要である。																						